

令和2年度企画展

吉村昭 医学小説



伝染病予防に奔走した人々

令和3年 3月24日(水) ↓ 5月23日(日)



企画展公式サイト

【開館時間】 9:30~17:00(常設展示は20:30まで)

【休館日】 毎月第3木曜日・特別整理期間
保守点検日・年末年始ほか

【入館料】 無料

【会場】 ゆいの森あらかわ 3階 企画展示室

※新型コロナウイルス感染症拡大状況により、開催日時等を変更する可能性があります。

吉村昭記念文学館



このたび吉村昭記念文学館では、令和2年度企画展「吉村昭 医学小説—伝染病予防に奔走した人々—」を開催いたします。

現在の荒川区東日暮里で生まれた小説家吉村昭は、21歳のころに持病の肺結核が重症化し、命の危険を伴う大手術を受けました。この闘病体験は、吉村作品の主題「死とはなにか、生とはなにか」に深く関わるとともに、医学に関する小説を執筆したきっかけでもありました。

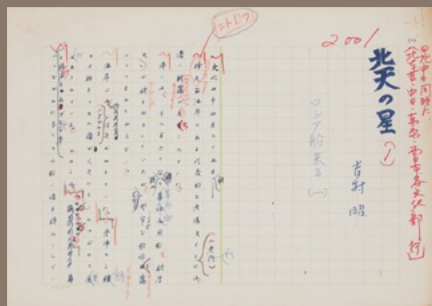
本展では、数ある医学小説から「雪の花」「北天の星」「破船」「花渡る海」など、コロナ禍においても注目を集めた天然痘に関する作品を取り上げます。中でも、江戸時代に死病と恐れられた天然痘の予防に奔走した人物、笠原良策・中川五郎治・久蔵に焦点を当ててご紹介します。彼らの生涯を吉村がどのように迫り描いたのか、自筆資料、旧蔵書、調査・取材資料からその軌跡をたどります。また、「花渡る海」がきっかけとなり、久蔵の故郷にある呉市立川尻小学校の関係者によって制作された「川尻浦 久蔵」の紙芝居と絵本も展示します。

「CREATA」第13号・第18号 昭和44年(1969)3月、昭和45年6月 日本メルク萬有株式会社 絵 村上豊 笠原良策・中川五郎治について描いた短篇小説。



湊里香 川尻浦 久蔵 個人蔵

広島県呉市川尻町で制作された絵本「川尻浦 久蔵」の表紙に使用された絵。



自筆原稿「北天の星」 津村節子氏寄託資料

日本で初めて天然痘予防のために種痘(牛痘法)をおこなった中川五郎治の激動の人生を描いた長篇小説。



吉村昭記念文学館

〒116-0002 東京都荒川区荒川二丁目50番1号(ゆいの森あらかわ内)
TEL 03-3891-4349 Fax 03-3802-4350
<https://www.yoshimurabungakukan.city.arakawa.tokyo.jp/>

【アクセス】

都電荒川線(東京さくらトラム)荒川二丁目(ゆいの森あらかわ前)下車徒歩1分
東京メトロ千代田線・京成線町屋駅下車徒歩8分
コミュニティバス「さくら」ゆいの森あらかわ下車(土日祝のみ)

【ご来館の皆様へのお願い】

- 体調がすぐれない場合はご来館をお控えください。
- 館内ではマスクの着用、手指の消毒をお願いします。

伝染病予防に奔走した人々

吉村昭 医学小説

令和2年度企画展



企画展公式サイト

図録販売について

- 金額 370円(税込)
- サイズ B5・48頁

そのほか

本展オリジナルグッズも販売

《販売場所》

ゆいの森あらかわ1階総合カウンター、または郵送販売

コラボ!!

カフェ・ド・クリエ × 吉村昭 医学小説—伝染病予防に奔走した人々—

「カフェ・ド・クリエ プラス ゆいの森あらかわ」でオリジナルの紙ナプキンを、ご注文いただいたお客様に配布しています。どうぞお楽しみください。

3月24日(水)より
数量限定で配布スタート!

歴史を考えることは、
現代を考えることでもあります。
その流れは同一で、これによって、
自分の生きている現代を見つめ、
将来を予測することもできると思います。

(『白い道』平成22年 岩波書店)

昭和46年(1971)頃 写真提供 筑摩書房

小説家 吉村昭 昭和2年(1927)~平成18年(2006)

東京府北豊島郡日暮里町大字谷中本(現荒川区東日暮里六丁目)生まれ。空襲で家が焼失するまでの18年間に荒川区で過ごす。学習院大学在学中に執筆活動を開始。昭和41年に「星への旅」で太宰治賞受賞。同年、「戦艦武蔵」を発表しベストセラーとなる。「死とはなにか、生とはなにか」を主題に、人間の本质を探究し、数多くの短篇と長篇を発表した。